お母さんに伝えたいこと

国府小・5　稲田　湖春

わたしは、五人姉弟の一番上です。三人妹がいて、五番目に弟がいます。姉弟が多いと、おにごっこをしたときはすごく楽しいし、だれかとけんかをしても、別の人と遊べます。でも、いない方がいいのにと思うこともあります。

その理由の一つ目は、自分だけかまってもらえない気がしてしまうことです。かまってもらえないと、自分は大切じゃないのかと思って、つらくなります。そんなとき、妹たちにきつくあたり、けんかになってしまいます。それで、お母さんに注意されると、反こう的になってしまいます。素直に聞けばいいのに素直になれず、言い返してしまいます。そのときは、（きらい。もう一生話したくない。もっとわたしの気持ちを分かってよ。）と思っています。本当は大好きな家族なのに、いやになります。その後、反省しても、ちゃんと謝れなくなってしまいます。そもそも、何が悪かったのか、けんかになった具体的な理由を、思い出そうとしても思い出せません。遊んでいるうちにわすれてしまいます。

二つ目は、わたしばかりおこられている気がしてしまうことです。お母さんも、わたしにばかりおこっているわけではないし、おこるのはきらいだからではなくて、よい大人になるようにするためということは分かっています。だけど、おこられると、（わたしばっかり）と思ってしまいます。上の子の方が多くおこられるのは不公平で、一番上の子が一番つらい思いをするのだとわたしは思います。

三つ目は、あまりかわいがられないことです。三番目の妹が生まれたころから、そうなった気がします。わたしも、ようち園くらいまではかわいがられていたのを覚えています。下の子は、姉妹からもかわいがられているのに、上の子は、下の子をかわいがることしかできません。そうなると、取り残された気持ちになります。悲しくて、小さいころにもどりたいと思ってしまいます。

わたしのすぐ下の妹は、自分が十パーセントかわいがられているとすると、五十パーセントくらいで、その下が六十、その下が八十で、一番下の弟が百パーセントかわいがられていると思います。かわいがられているほど、わたしにとってはてきになります。だけど、一番下の子のことはかわいがってしまいます。弟が生まれるまでは、四番目の妹が一番かわいいと思っていて、

「弟より妹の方がかわいい。弟が来ても、絶対かわいがらない。」

と言ったのを覚えています。でも、弟が生まれると、だんだん妹が別の感じになってきました。大切さは変わらないけど、例えば、かわいいの部屋から出て、別の部屋に入ったような感じです。

わたしの弟は、一才八か月です。まだ小さくて、やっとしゃべることができるようになってきました。手が不器用で、思うように動かないことも、「はやいー。」と聞くときの「い」がのびているのも、ねている顔も、ふざけている顔も、けんかでやられている人を助けようとするときも、食べているときも、車の本をはなさないときも、何をしても全部かわいいです。

四番目の妹は、姉弟やおじいちゃん、おばあちゃんを笑わせようとがんばっています。でも、みんなが弟の方を見て、自分を笑って

くれないとおこっています。それを見ると、かわいいとかわいそうを混ぜ合わせた気持ちになります。

人は、新しい人や物が来ると、そっちに興味をもってしまいます。妹たちも、みんなが弟ばかり見て、やきもちをやくことがあるかもしれません。お母さんも多分、わたしが大切でなくなったわけではないと思います。考えてみると、お母さんがわたしのためにしてくれていることは、数え切れないくらいあります。

お手伝いのときは、妹たちができないことをやらせてくれます。例えば、スーパーマーケットで生きているタコを見たときのことです。わたしが、

「買ってみたい。」

と言うと、お母さんは店員さんにゆで方を聞いて、

「湖春、一人でやってみる。」

と言って、買ってくれました。家で作って食べてみると、お母さんは、

「買ったゆでタコよりおいしい。」

とほめてくれました。わたしは、自分だけでやらせてもらえて、わたしをみとめてくれたことがとてもうれしかったです。

その他にも、ずっと楽しみにしていた野外活動が、新型コロナウイルスの流行で中止になったと聞いて、がっかりして帰ってきたとき、お母さんが、

「自分たちだけで計画して行ってみようか。」

と言いました。わたしはびっくりして、

「え、行けるの。」

と聞き返しました。わたしの気持ちを受け止めて、何か喜ばせようとしてくれている気持ちが分かって、すごくうれしかったです。

弟たちとは、かわいがられ方はちがうけれど、パーセントでいったら同じなのかなと思いました。わたしは、お母さんにあまえることができるときは思いっきりあまえて、少しずつ妹や弟にあまえさせてあげられる立場に変わっていけるといいです。

３・９